

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 51/18

55/02

識別記号

E

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 4 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-329211

(22) 出願日 平成 6 年 (1994) 12 月 5 日

(71) 出願人 000222222

東洋ガラス株式会社

東京都千代田区内幸町 1 丁目 3 番 1 号

(72) 発明者 上田 良三

東京都葛飾区新小岩 2 丁目 15 番 5 号

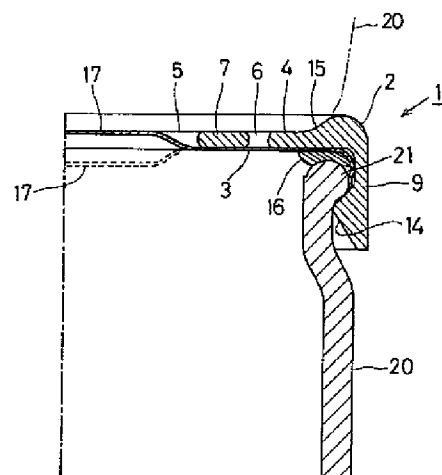
(74) 代理人 弁理士 神戸 清 (外 1 名)

(54) 【発明の名称】 広口容器の蓋

(57) 【要約】

【目的】 密封が確実に行われているかどうかを外部から一目瞭然に視認できる広口容器の蓋を提供する。

【構成】 広口容器口部のリップに嵌合する短筒状の樹脂製外蓋の天板の背面に、薄板状の金属製又は樹脂製で内容物を密封するシール蓋を一体的に設け、該シール蓋に内圧と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に突出変位する圧力確認部を設け、外蓋には外側から該圧力確認部を視認できる圧力視認部を設けたことを特徴とする広口容器の蓋である。圧力視認部から圧力確認部の状態を見ることで、密封性が完全であるかどうか一目瞭然に確認できる。



- | | | | |
|---------|--------|---------|----------|
| 1 蓋 | 2 外蓋 | 3 シール蓋 | 4 天板 |
| 5 穴 | 6 切込 | 7 嵌まり部 | 9 筒壁 |
| 14 突条 | 15 窪み | 16 シール部 | 17 圧力確認部 |
| 20 広口容器 | 21 リップ | | |

【特許請求の範囲】

【請求項１】 広口容器口部のリップに嵌合する短筒状の樹脂製外蓋の天板の背面に、薄板状の金属製又は樹脂製で内容物を密封するシール蓋を一体的に設け、該シール蓋に内圧と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に突出変位する圧力確認部を設け、外蓋には外側から該圧力確認部を視認できる圧力視認部を設けたことを特徴とする広口容器の蓋

【請求項２】 外蓋に、摘まり部と、該摘まり部から連続し、破断線で筒壁から切り離し可能な切断部とを設け、該摘まり部を引いて切断部を切り離して開蓋する請求項１の広口容器の蓋

【請求項３】 シール蓋を薄板円盤状のアルミニウム製とし、圧力確認部をシール蓋の上側又は下側に皿状に突出させたものとし、圧力視認部を摘まり部の中央の穴とした請求項２の広口容器の蓋

【請求項４】 シール蓋を薄板円盤状の樹脂製とし、圧力確認部をシール蓋の上側又は下側に皿状に突出させたものとし、圧力視認部を摘まり部の中央の穴とした請求項２の広口容器の蓋

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】本発明は、日本酒等の飲料のコップ状の容器、いわゆる、ワンカップ容器に用いて好適なもので、内容物を暖めた状態で包装するいわゆるホットパックを行う広口容器の蓋に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】従来のこの種の広口容器には、薄い板状のアルミニウム製の蓋を容器口部のリップに嵌合し、蓋の縁に摘まり部を設け、開蓋するときは該摘まり部を引き、蓋の周縁部を破壊し、容器口部のリップとの嵌合を解除する、いわゆる、リンブルキャップが用いられていた。リンブルキャップの例は、実開平５－７１１１８号公報等々に示されている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】従来の、いわゆるリンブルキャップを代表とするホットパックを行う蓋は、包装完了後に内容物の温度が下がり内圧が変化するために密封を損じることがあるが、それを外部から視認することはできなかった。本発明は、内圧の変化を利用し、密封が確実に行われているかどうかを外部から一目瞭然に視認できる広口容器の蓋に関するものである。

【０００４】

【課題を解決するための手段】本発明は、広口容器口部のリップに嵌合する短筒状の樹脂製外蓋の天板の背面に、薄板状の金属製又は樹脂製で内容物を密封するシール蓋を一体的に設け、該シール蓋に内圧と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に突出変位する圧力確認部を設け、外蓋には外側から該圧力確認部を視認できる圧力視認部を設けたことを特徴とする広口容器の蓋である。

【０００５】

【作用】本発明は、上記の構成のごとく外蓋とシール蓋とでなり、外蓋は広口容器口部に嵌着させて容器にしつかりと固定する作用を、シール蓋は外蓋と一体化されることで容器の内容物を密封する作用を有する。また、シール蓋には内圧と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に突出変位する圧力確認部を設けたので、ホットパックする際には圧力確認部を外側に変位させた状態で蓋を装着する。包装完了後に内容物の温度が下がり、内圧が外圧に対して小さくなり、圧力確認部は内側に変位することとなる。もし、密封性が損なわれているときは、内圧と外圧はほぼ等しくなり、圧力確認部は外側に変位したままとなる。これを外蓋の圧力視認部から確認すれば、密封性が完全であるかどうかを一目瞭然に視認することができる。

【０００６】

【実施例】以下実施例を表した図面を参照しつつ本発明を詳細に説明する。図１は実施例の広口容器の蓋１の容器への装着状態の略断面図である。同図においては左半分及び容器の下側を省略して表している。図２は外蓋２の上面図、図３は外蓋２の側面図である。

【０００７】蓋１は、ガラス製のコップ状の広口包装容器に装着するもので、樹脂製で短筒形状をなす外蓋２とアルミニウム製のシール蓋３とからなる。外蓋２の天板４には、図２に示すように、中央の穴５とその周囲の切込６により摘まり部７が形成され、この摘まり部７は脆弱なブリッジ８を切断して簡単に引き起こせるようになっている。穴５は、外部から圧力確認部１７を視認するための圧力視認部でもある。切込６は、図３に示すように、筒壁９に至り、その先が内面をＶ字溝１０とした切断線１１に続いている。その下端は、切断をより容易にするための切欠１２となっている。２本の切断線の間が摘まり部７から連結し摘まり部７と共に外蓋２から切り離される切断部１３となっている。なお、本実施例よりも切込６を短くし、その分切断線１１を長くして切断線を天板４にも形成できることはもちろんである。図１に示すように、外蓋２の筒壁の下端には内側に膨出する突条１４が形成され、広口容器２０のリップ２１と嵌合する。また、外蓋２の天板４上面には、広口容器２０の底部形状に対応した窪み１５が形成され、積み重ね可能となっている。

【０００８】シール蓋３は、略円盤状をなし、図１に示すように、その背面のびん口部と接触する部分に環状にコンパウンド（ライニング）でシール部１６が設けられており、外蓋２の天板４の背面、突条１４の上側に、機械的に嵌着され、一体化されている。外蓋とシール蓋を一体にするには、機械的に嵌着する他に、予め成形したシール蓋を外蓋の金型に取り付け、この状態で外蓋を成形する方法等、種々の公知方法を用いることができる。シール蓋３の中央部は上側又は下側に皿状に突出する圧

力確認部１７となっている。

【０００９】蓋１は、図１に示すごとく、圧力確認部１７が上側に突出した状態で容器２０に上方から機械的に装着される。突条１４とリップ２１は強固に嵌合し、しっかりと固定される。シール部１６は容器口部に押圧されて、内容物を密封する。やがて内容物の温度が下がると、内圧が外圧より小さくなり、圧力確認部１７は、図１に破線で示すように、内側に変位する。密封性が損なわれている場合は内圧と外圧がほぼ等しくなっているから、圧力確認部１７は外側に突出したままとなっている。したがって、圧力視認部である穴から圧力確認部１７の状態を見て、密封性が完全であるかどうかを確認することができる。

【００１０】使用者が開蓋するときは、摘み部７を引き起こし、更に引いて摘み部７及びこれに連結している切断部１３を外蓋２から切り離す。これにより外蓋の筒壁が開放され、リップ２１と突条１４の嵌合を簡単に解除でき、蓋１を容器２０から取り外すことができる。アルミニウム製のシール蓋３は切断されず、また、外蓋の内側に一体的にあるから、人を傷つける危険はない。

【００１１】図４は他の実施例の蓋３０の平面図である。蓋３０の外蓋３１の天板３２には穴３４及び切込３５により摘み部３３が形成されている。穴３４は、やはり、外部から圧力確認部を視認するための圧力視認部となっている。このように、摘み部及び圧力確認部は蓋の中央付近に設けるのみならず、種々の位置に種々の大きさで、また、種々の形状で設けることができる。

【００１２】図５は他の実施例の蓋４０の容器への装着状態の略断面図である。本実施例はシール蓋を樹脂製とする例である。蓋４０のシール蓋４１は略円盤状の樹脂製で、その背面のびん口部と接触する部分に環状にコンパウンド（ライニング）でシール部４２が設けられている。シール蓋４１の中央部は周囲よりも肉薄となっており、上側又は下側の圧力の小さいほうに皿状に突出する圧力確認部４３となっている。

【００１３】

【発明の効果】本発明広口容器の蓋は、内圧の変化を利用し、密封が確実に行われているかどうかを外部から一目瞭然に視認できる。また、構造も簡単で、安価容易に

製造できる。

【図面の簡単な説明】

【図１】実施例の広口容器の蓋１の容器への装着状態の略断面図である。

【図２】外蓋２の上面図である。

【図３】外蓋２の側面図である。

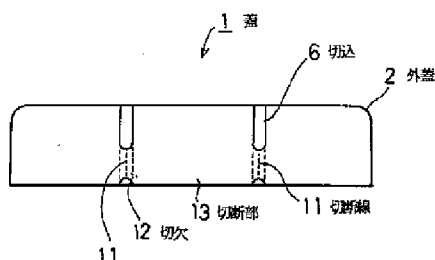
【図４】実施例の蓋３０の平面図である。

【図５】実施例の蓋４０の容器への装着状態の略断面図である。

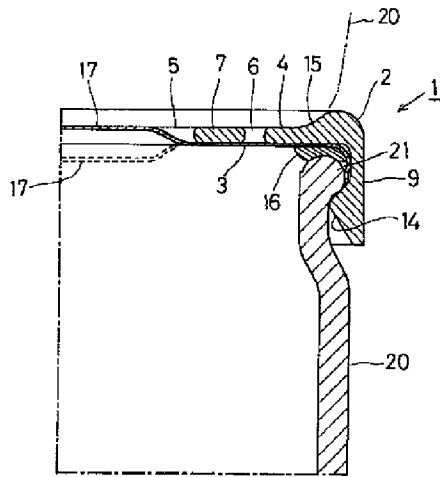
【符号の説明】

- １ 蓋
- ２ 外蓋
- ３ シール蓋
- ４ 天板
- ５ 穴
- ６ 切込
- ７ 摘み部
- ８ ブリッジ
- ９ 筒壁
- １０ Ｖ字溝
- １１ 切断線
- １２ 切欠
- １３ 切断部
- １４ 突条
- １５ 窪み
- １６ シール部
- １７ 圧力確認部
- ２０ 広口容器
- ２１ リップ
- ３０ 蓋
- ３１ 外蓋
- ３２ 天板
- ３３ 摘み部
- ３４ 穴
- ３５ 切込
- ４０ 蓋
- ４１ シール蓋
- ４２ シール部
- ４３ 圧力確認部

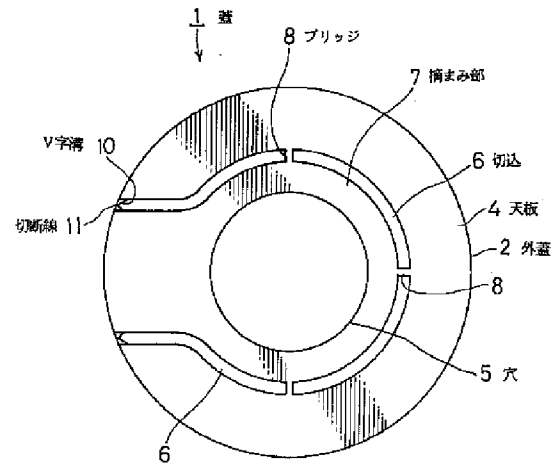
【図３】



【図1】

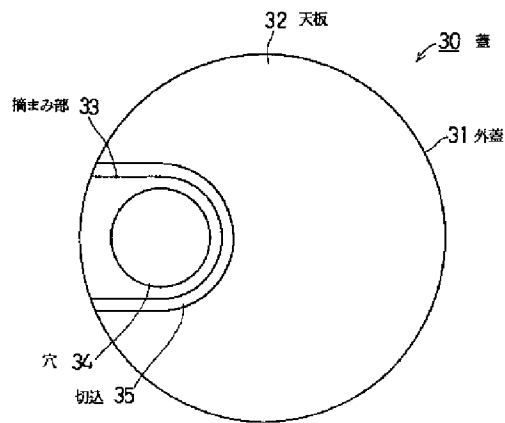


【図2】



- | | | | |
|---------|--------|---------|----------|
| 1 蓋 | 2 外蓋 | 3 シール蓋 | 4 天板 |
| 5 穴 | 6 切込 | 7 橋まり部 | 8 プリッジ |
| 14 突条 | 15 窪み | 16 シール部 | 17 圧力確認部 |
| 20 広口容器 | 21 リップ | | |

【図4】



【図5】

